

北海道聖書学院 2023年度 2学期(8/24~11/14) 聴講のための授業案内

曜日	科目名	講師・教師	授業内容
火曜日	ギリシャ語文法③	高橋政宣師	1学期から学び始めています。聴講を希望される方は、来年度4月よりご参加ください。
	中間時代	山本 門師	2学期・3学期(隔週)を通して10回の学びです。旧約と新約の間の時代を「中間時代」と言います。この時代には、その歴史的な背景の中で、様々な制度や思想が生まれました。まず、この時代の歴史を学び、その歴史から生まれた制度や思想などを概観し、キリストの福音がどのような背景で語られたのかを考えます。
	キリスト教史②	川崎憲久師	2学期は、中世後半「イスラムの侵入と聖像破壊論争」～近世「宗教改革」までを学びます。キリスト教会の光と闇の歴史を顧みながら、その延長上に今の私たちがいることを知り、歴史の中に愛をもって摂理される神を愛する者として整えられることを目指します。
	教会音楽Ⅱ	加藤嘉成師 加藤百合香師	教会音楽は礼拝行為であり、主を畏れ、主を崇め、主を喜びつつささげるものです。主日礼拝での賛美について実際的なことをご一緒に考え、学びましょう。礼拝のなかでの賛美(会衆賛美、奏楽、聖歌隊など)を実際的に学びます。また、楽譜が読めなくてもできる練習方法についてご提案いたします。
水曜日	教会音楽Ⅰ	遠藤 稔師	教会で使われる音楽、そして歌の内容について聖書を通して神さまは私たちに多くのことを教えてくださっています。聖書が教える教会音楽について、ひたすら聖書から学び、分かち合うクラスです。初めての方でも参加できます。実際に歌いながら学びます。
	旧約聖書通論②	吉田浩二師	創世記から小預言書までを3学期かけて学びます。各書を自分で読むことができるようになる「鍵」をお渡ししたいと思います。通年の科目ですので、1学期から聴講することをお勧めします。
木曜日	神論 2学期10週 3学期5週	吉永沙織師	(15回の学び) 聖書から神がどのようなお方(神の属性、近さと遠さ、三位一体など)で、何をなさる、なさったお方か(計画、創造、摂理など)を学びます。教理的知識なしに霊的健康さを保つことはできませんが、単なる知識を身に付けるのではなく、神に仕え、神を喜ぶことを目指します。
	啓示・聖書論	松元ハンナ師	全15回の学びです。1学期にすでに5回の学びを終えていますので、聴講したい方は来年度ご参加ください。
	終末論	水草修治師	まず「終末論」という用語の意味内容は神学的立場で相当に異なることを学びます。次に、終末論にかかわる聖書の解釈原理を学び、これに基づいて聖書が教える個人と世界の終わりのことについても学びます。
	現代神学	水草修治師	自由主義神学、弁証法神学、神の死の神学、解放の神学、宗教的多元主義などさまざまな神学を、これらの背景にある近現代思想史から理解し、私たちの立つべき聖書的世界観を明らかにし、「教への風に吹きまわされなくなる」ことを目的とします。
金曜日	小預言書	中西健彦師	聖書中、特に難解とされる小預言書ですが、そこに宝が隠されています。特にマラキ書の釈義を中心に、神への恐れと礼拝の姿勢を学びます。なお、履修にはヘブル語の知識が必要です。
	共観福音書	小澤和男師	共観福音書(マタイ、マルコ、ルカ)を読むとき、記事の寄せ集めという印象がつかまうかもしれませんが、この学びでは各福音書の構造を詳細に分析し、神がそれぞれの記者を通して、いかに深い配慮と計画をもって書いてくださったのかを明らかにしていきます。
	獄中書簡	野村啓祐師	特にエペソ人への手紙を読み、その背景や構成なども理解した上で、この書の使信を受け取ることを目指します。また、学んだ内容を他の人にお伝えしたり、教会で学びをしたりするための備えになればと願います。
	ヨハネ書簡	木村恵一師	御救いにより、私たちが豊かに与っている恵みと特権を、この書簡を通して味わって参りましょう。
土曜日	説教理論Ⅰ	菜花和男師	説教理論の概要とその基礎を学びます。題目説教、聖句説教、講解説教の違いを理解し、それぞれの説教準備の手順を身につけます。藤原導夫著「キリスト教説教入門」をテキストとします。
	新約聖書通論②	吉田麻希子師	新約聖書の各巻の背景を理解し、その内容を把握するための学びです。

※1 聴講を希望される方は、聴講願書にご記入の上、学院へご提出ください。所属教会の責任者の推薦が必要です。

(聴講願書は、同封いたしました。足りない場合は、コピーしてください。)

※2 聴講料は1科目につき、1学期間15,000円です。3回に分割して納入することもできます。(1ヶ月5,000円×3回)